

幼児音楽研究室（西海聡子）

▶どのような研究や活動に取り組んでいますか？

私の専門は「幼児音楽」です。幼児は歌ったり踊ったりするのが大好きで、幼児と音楽はととても相性の良いものです。音楽を通して子どものあそびや生活を豊かに、そして音楽で子どもの楽しさを増やしたいと願っています。とくに乳児期には、ふれあい遊びや音楽的な関わり合いが大切、という思いから、0,1,2歳児の親子での音楽遊びの実践等も行ってきました（写真1）。さらに保育現場の音楽活動を豊かにするために、手遊びうたやわらべうたなど遊び歌の研究、保育者養成校におけるピアノ教育の研究等にも取り組んでいます。昨今では、幼稚園教育の基盤ができた明治後期に焦点をあててその頃に歌われた歌などの歴史研究にも着手しています。（写真1→）



▶この研究室やゼミ（4年次）のことについて教えてください。

平成元年告示の教育要領で領域「表現」の登場とともに、子どもの表現を受け止め、環境やあそびを通して行う教育の重要性が指摘され、近年ではとくに「幼児主体の保育」が求められています。しかしながら、音楽表現領域では、まだまだ保育者主導で進められる活動も見られます。私のゼミでは、この「あそび中心の保育」、「幼児主体の保育」をベースにおいたうえで、個々の学生の興味関心に応じたテーマを研究しています。研究手法は、「子どもから学ぶ」、「保育実践から学ぶ」ことを大切にして、観察・調査・フィールドワークから得られた学びと、資料や文献からの学びを統合した論文作成に取り組んでいます。

これまでのゼミ生が取り組んだテーマは下記のようなものがあります。「幼児音楽」の世界を一緒に探求しましょう。

「子どもの主体性を活かした音楽発表会」

「保育における子どもの歌の伴奏について」

「保育現場でのBGMの活用について」

「保育における和太鼓を用いた音楽活動と和太鼓がもたらす子どもへの豊かさについて」

「子育て支援におけるふれあい遊びうたの役割」等。

また、3年生のゼミでは、学内にある子育て支援施設、森のサロンで、1,2歳児とその保護者の方に向けて楽しい歌やダンスを発表する活動なども行っています（写真2→）。

